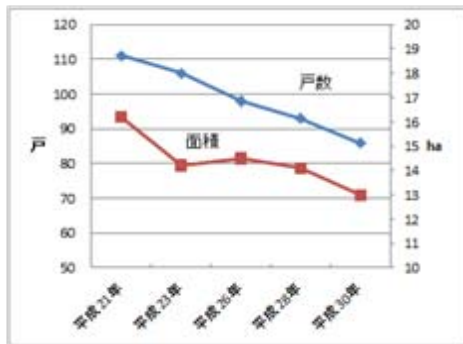


いちご、わさび等園芸作物の経営体強化 (わさび優良苗確保対策の推進)

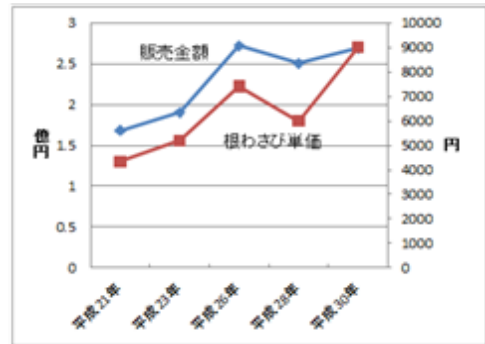
活動期間: 令和2年度

○ 取組の背景

- ・静岡市のわさび産地では、生産者戸数・栽培面積とも徐々に減少しているが、販売金額は増加・単価は高値で推移している。規模の大きな生産者が、面積を維持拡大しながら販売量を増加させている傾向がある。
- ・良質なわさび生産には優良な苗を利用することが必要。
- ・市内の安倍山葵業組合の生産者の多くは、取引先から形質の安定したわさびが求められることから、メリクロン苗やメリクロン苗を親とした二次苗の利用割合が高い。
- ・しかし、わさび苗生産業者の高齢化等により、わさび生産者が安定的に苗を入手することが困難な状況となってきた。



戸数: 安倍山葵業組合総会資料より
面積: 静岡県わさび生産量調査(旧静岡市分)



販売金額: 安倍山葵業組合総会資料より推計
根わさび単価: 東京都中央卸売市場での県内産単価

○ 課題・目標

- ・苗の不足 ⇒ 育苗組織の立ち上げ
- ・担い手不足 ⇒ 「がんばる新農業人支援事業」による新規就農者の募集・受入

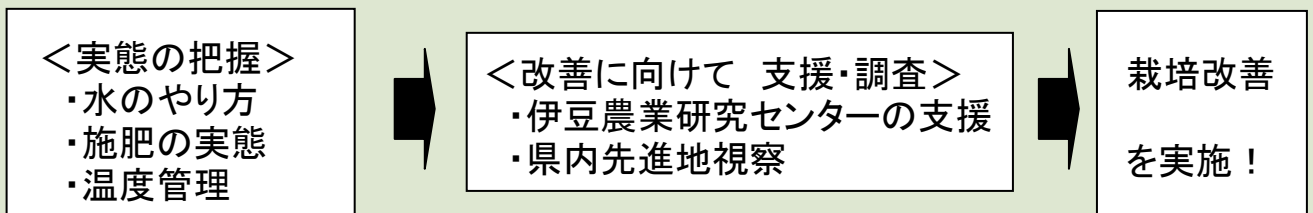
普及指導員の活動

○ 推進方向1 「育苗組織の立ち上げ支援」

■平成27年8月、**わさびの農業経営士4名を含む7名が、自分たちでわさび苗を生産する法人**を設立、育苗施設建設のための生産計画作成、補助事業申請などを全面的に支援

○ 推進方向2 「優良苗生産増殖率の向上」

■平成29年からわさびの組織培養二次苗生産を開始したが、増殖率が低かったため、栽培を基本から見直し。



■併せて、改善展示ほを令和元年から設置。
・施肥量改善等の実証。

○ 推進方向3 「担い手農家の育成支援」

■令和2年度より、「がんばる新農業人支援事業」を活用し、新規就農者の受入を開始。

具体的な成果

○「育苗組織の立ち上げ支援」

■「あおい高原育苗生産株式会社」設立(平成28年4月1日)と静岡市葵区有東木にわさび苗育苗施設建設(平成29年2月竣工)を全面的に支援



施設:単棟ハウス3棟(合計10a)、20cmポットによる高設栽培(約1万本)
建設事業費:39,823千円
うち 27,900千円は補助事業利用
(耕作放棄地再生利用緊急対策事業、わさびの産地育成事業(市単))

○「優良苗生産増殖率の向上」

■栽培管理見直しにより、出荷実績が大幅に向上

栽培管理
の見直し



- ・水のやり方⇒2週に1回から週1~2回へ
- ・施肥の改善⇒元肥だけでなく、生育に併せて**液肥**を施用
- ・温度管理 ⇒設定15°C、こまめな換気を実施

上記を実践することにより、採取本数が大幅に増加

平成29年 5.2本/株 → 平成30年 3.4本/株 → 令和元年 **7.1本/株 (H30比209%)**

※あおい高原育苗生産組合(株)全体の平均本数

■施肥条件を変えることにより、増殖率向上効果があることが判明

単位:本/株

| 区 | A区 | B区 | C区 | D区 | E区 |
|-----|------|-----------|-----------|------------|------------|
| 品種名 | 元肥のみ | 5.3kg/10a | 9.1kg/10a | 16.5kg/10a | 31.4kg/10a |
| 三宝Ⅲ | 4.4 | 6.3 | 7.9 | 8.8 | 9.9 |

■採取する苗の大きさを小さくする(20g程度→10g程度)ことにより増殖率向上効果があることが判明

同一の施肥量(等倍施肥)で比較 7.9本/株 → **11.9本/株**

○「担い手農家の育成支援」

■県「がんばる新農業人支援事業」により、令和3年3月より、新規就農希望者1名の研修を開始



現地見学会



事前研修